

令和5年度 第4回川崎市社会教育委員会会議多摩市民館専門部会摘録

- ・日 時 令和6年2月18日（日）14時30分～15時30分
- ・場 所 多摩市民館 第1会議室
- ・出席委員 高梨部会長、米山副部会長、羽深委員、小澤委員、山本委員、安陪委員、三品委員、小園委員
- ・事務局 柏原館長、星野係長、篠原係長
- ・傍聴者 なし

1 開 会（星野係長）

2 部会長挨拶

3 市民自主学級・市民自主企画事業選考会（非公開）

令和6年度多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業に企画提案された1事業について、実施対象として選考され、川崎市社会教育委員会会議へ報告することとなった。

4 令和5年度第3回会議録について

資料1に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

5 議 題

(1) 令和5年度施設管理等について（報告）

資料2に基づき星野係長から説明。特に質疑はなし。

(2) 令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について（報告）

資料3に基づき篠原係長から説明。

（高梨部会長）

「令和6年度多摩市民館市民自主学級・自主企画事業企画案募集のご案内」の中に「年度末の『市民自主学級・自主企画事業報告会』に参加」とあるが、令和5年度に実施された2事業についても報告会は開催されたのか。

（篠原係長）

毎年、多摩市民館においては、市民自主学級・市民自主企画事業の報告会を兼ねる形で生涯学習交流集会を開催している。令和5年度に実施された事業についても、同集会当日にパネルを用いた発表や資料配布等により参加者への報告が行われた。

(3) 今期テーマの報告内容について

「区内全域への社会教育アプローチ強化について ～アウトリーチ・モデルの実践を通して～」

資料4に基づき篠原係長から説明。

（篠原係長）

事前に委員の皆様へ資料を郵送させていただいたが、特に質問等はなかった。改めて御意見等があればいただきながら、報告内容を審議いただきたい。

(柏原館長)

委員の皆様へ事前にお送りした資料からの変更点は、高齢者セミナーの写真を掲載した点、報告内容の最後に高梨部会長によるまとめを掲載した点である。こちらは初めて御覧いただく内容なので御確認いただきたい。

(米山副部会長)

今回、区内全域への社会教育アプローチの強化に向けて、アウトリーチ・モデルの実践を行ったが、今後、どのような内容の事業を年に何回開催していくといった計画はあるのか。

(篠原係長)

現段階で計画は具体化していないが、関係部署とも相談をしながら、多摩市民館が立地する登戸地区以外のいずれかの地区を選定し、事業を実施していきたいと考えている。

(三品委員)

今回、アウトリーチの取組を行うことにより、事業全体として参加者は増えたのか。

(篠原係長)

社会教育振興事業全体の受講者数はすぐにはお示しできない。講座数で申し上げれば、これまで多摩市民館内で開催してきた高齢者セミナーを館外で実施した形なので、数として増えているわけではない。

(三品委員)

最終的にアウトリーチの取組を行ったことによる評価が必要になると思う。取組を通じて参加者が増加したかどうかなど。

(篠原係長)

参加者数は精査して算出する必要があるが、印象として大きく変わっていないと思うが、これまで多摩市民館の講座に参加できなかった方や、参加しづらかった方にとって、参加の機会が広がったと考えている。

(三品委員)

アウトリーチの取組として、多摩市民館にアクセスしづらい地域に出向いていくほか、例えば多摩市民館にアクセスしづらい参加者をバスで多摩市民館に送迎することでアクセスしやすくするような取組があってもよいと思う。後者の視点に触れていないのは、片手落ちのようにも見えるので、今後の課題ではないか。

また、取組の評価が重要であり、定性的な評価のほか、数値による定量的な評価も行った上で全体の方針が上手くいっているのかどうかを示していく必要があるのではないかと。

(高梨部会長)

今回のアウトリーチ・モデルは実験的な取組であった。定量的な評価も必要だが、今回の取組ではそのためのデザインをしていたわけではないので、データを出すのは困難と思う。講座のデザイン自体をどのように作っていくかということも次回以降の課題になってくると思う。

(安陪委員)

社会福祉協議会でも参加者を募り様々な各種講座を開催しており、力を入れて広報をしているが、一般市民の方に広く参加いただくのは難しい状況がある。知っていただくことは大変重要なので幅広い方

に行きわたる広報、各種団体への広報などを地道に行っていくことが必要と思う。

(篠原係長)

今年度の生涯学習交流集会は事前の反響があまり大きくなかったが、他のイベントでチラシを配布するなど地道な広報を行うことで、多くの方の参加につなげることができた。地道な広報の積み重ねが参加者の獲得につながっていくと改めて感じている。今後も、他の講座も含め、ターゲットを見据えて「届く」広報に取り組んでいきたい。

(山本委員)

次年度以降も「アウトリーチ」をテーマとして実施地区や対象を変えながら実施していくのか、それとも別のテーマについて審議していくこととなるのか。

(柏原館長)

当専門部会は1期2年で開催しており、来年度からは次期専門部会がスタートする。当専門部会では多摩市民館の各種事業全体を対象に審議いただいており、その中でどういった視点で会議を進めていくのかを含めて次期委員によって決めていただくこととなるので、あらかじめテーマを限定することはしない。

今回のアウトリーチの取組について、次期専門部会のテーマとならないとしても、多摩市民館の通常の事業の中では検討を行っていく形となる。

(柏原館長)

今回の報告内容については3月に確定する予定である。今後、委員同士の議論が必要となるような大幅な変更は難しいが、表現などについてお気づきの点などあれば、事務局まで御連絡いただきたい。

6 閉 会 (米山副部長)